雨が降る後

ゆかぼし

雨がざあざあ降る日には涙の夜を思い出す
一人ぼっちで泣いた日を
心が凍えていた時間
あなたと別れた悲しみを

涙の粒は透明であなたを想う一筋の気持ちが零れたようだった
きらきら光る星屑を冷たい気持ちで見つめてた
月の綺麗な輝きが孤独を彩るようだった
一人でいるということが際立つ光に見えたんだ

それでも私に朝が来た
いつもと同じ何気ない意識もしない朝が来た

闇が覆っていた空を朝の光が照らし出す
星は姿を消していき優しい青がやって来た

どうして雨の降る後に空には虹が架かるのか
それは悲しい出来事を自分の力で乗り越えて
それは苦しい出来事を自分の心で受け止めて

随分時が経ったときその目を開けたら見えるもの
光があるということに気がつくだけで分かるもの

悲しい気持ちになる度にそれを超えたら喜びに
巡り逢えるということを自然が教えてくれている

苦しい気持ちに耐えるから嬉しいことが尊いと
空が教えてくれている

だから希望を捨てないで
闇に連なる太陽を

涙に続く愛しさを
ただひたむきに信じたい

たとえ逢えない人だって心の中で想う度
愛しいひとになるように
忘れられない想い出が
忘れたくない想い出が
素直に心を包んでく
優しく気持ちを和らげる

心に虹は出ないけど諦めないで前を向く
光が照らしてくれるから
花を咲かせる優しくて強い陽射しがきらめいて
闇夜は必ず終わるから
悲しい気持ちと喜びが私を作りだしていく
あなたを作りだしていく

ゆかぼし

一九八六年埼玉県生まれ
明治大学法学部卒
統合失調症を患いながら、病気と共存しひたむきに生きていくための糧として詩の創作活動を続けている